

3 県立高校入学者選抜の改善に係るアンケート調査

資料

調査対象・時期 県立高等学校長(64名) 平成22年11月

1 推薦入学者選抜について

		(人)	(%)	(理由・意見等)
①	現行どおりでよい	31	48.4	<ul style="list-style-type: none"> ・推薦が復活し各校とも基準を整備し、活性化につながった学校がみられる ・中学校の大半も現行どおりを望んでいる ・推薦入学の内容が周知、理解されている ・入学者選抜の基本は一般入試であり、その意味では、推薦は現状の10%程度が妥当である ・推薦基準は各校様々なので、B選考と共存しても良い
②	改善が必要である	27	42.2	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくりのため、学校裁量の幅を拡大する必要がある ・基礎学力が備わっていない生徒が入学する可能性がある ・部活動の実績だけの判断には偏りが生じ、中学校での教育活動に影響を及ぼしている ・実績を重んじる推薦には、外部団体での活動実績が入り、中学での教育活動を判断しているとは思えない
③	推薦入試は必要がない	5	7.8	
④	その他	1	1.6	

2 推薦入学者選抜で、改善が必要と思うもの。また、その改善内容【1-②回答者】

①	応募資格	10	37.0	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動以外の推薦枠の設置 ・入学する学科での学習意欲 ・特定の教科に優れた能力を有する者 ・学力の基準を示す項目 ・自己推薦制度にする ・特色ある学科に関しては、全国からの出願を認める
②	募集定員	17	63.0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校裁量で定員の決定ができるようにする ・学科枠をなくす ・普通高校は推薦入試は実施しない
③	出願制限	6	22.2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校裁量とする
④	検査期日	2	7.4	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜の2週間ほど前に実施 ・2日間の実施 12月の実施
⑤	検査内容	7	25.9	<ul style="list-style-type: none"> ・学校裁量の幅を広げる ・学力検査の実施 ・校種を問わず基礎学力確認の試験を課す
⑥	選抜方法	7	25.9	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動枠の定員と学力枠の定員を分けて選抜 ・学力検査を実施し、B選考の割合で点数換算 ・学校裁量の幅を広げる
⑦	その他	4	14.8	<ul style="list-style-type: none"> ・専門高校用の応募資格や選抜方法を考慮した選抜制度を設ける ・農業高校には後継者枠があってもよい ・推薦基準を満たすことを証明する書類を求める

3 一般入学者選抜の選抜方法について

	(人)	(%)	(理由・意見等)
① 現行どおりのABC選考がよい	20	31.3	・受検生を多面的に評価出来る ・選考割合を変えることによって、特色ある入学者選抜が可能である ・これ以上複雑にしないほうがよい
② ABC選考の方法について改善が必要	34	53.1	・推薦入試の関係からB選考を見直す必要がある ・学校によっては、B・C選考が不必要。倍率がある程度確保されないと、選考方法の違いが生かされにくい ・B選考に課外活動実績が反映されにくい ・推薦にも学力の確認が必要である
③ ABC選考以外の選抜方法がよい	10	15.6	・推薦入試のあり方を含めて全体的な入試の構成を考えた方がよい ・もっと単純な入試制度がよい

4 ABC選考の方法で、改善が必要と思うもの。また、その改善内容【3-②回答者】

① ABC選考の採択	15	44.1	・学校裁量で採択できるようにする ・Aを基本として、B・C選考実施を学校裁量とする
② ABC選考の選考順	5	14.7	・学校裁量で選考順を決められるようにする ・各校で合格枠の多い順に選考できるようにする
③ ABC選考の割合	16	47.1	・学校裁量で割合を決められるようにする ・0%を可とする
④ 学力検査:調査書・面接点等の比率	9	26.5	・学校裁量で比率を決められるようにする
⑤ その他	5	14.7	・B選考をなくし、推薦の選抜方法を工夫する

5 ABC選考以外の新たな選抜方法の案【3-③回答者】

<ul style="list-style-type: none"> ・面接点の比率を高くしたD選考を設ける ・県下一斉の検査日と各高校毎の検査日の実施 ・調査書と学力検査のみの選抜 ・一般入学者選抜はA選考的なものに一本化し、別に各校の特色を生かせる選抜を定員の10～30%程度で1～2月頃実施。出願条件は各校に任せる。選抜方法は調査書、面接、作文、実技等とする。これにともない現在の推薦入試は廃止 ・学力検査のみとし、必要であれば各校ごとに傾斜配点を導入する ・定員に満たない学校が多くある中、「選抜」の意味が薄れており、人物、意欲をみる面接・作文でもよいのでは。学力は、中学校の学力調査や新たな統一学力試験等で代替
--

6 調査書の学習の記録の換算について

① 現行どおりでよい	41	64.1	・中学校に慣れ、勉強等が軌道に乗るのは中2からである ・中1ギャップの問題もある ・2、3学年の評定だけで十分学習の成果を確認できる ・1年の換算点を入れたとしても、小さい割合となると思うので不要
② 1学年の学習の記録を換算に入れる	20	31.3	・中学3年間の学習状況を反映させるべき ・1学年から学力向上を意識させ、その結果も評価したい ・基礎・基本の定着は1学年から意識させ、計画的に指導するべきである ・1年生時の努力も評価すべき
③ ②以外で改善が必要である	3	4.7	

7 調査書の「学習の記録」の換算についての意見、改善案

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で学ぶ全教科を対象とすべきであり、1学年の評定も必要。比率は低くても良いので、1年生の調査書換算点も入れる ・各教科の配点割合は全て同等とする。(実技教科の得点割合を高くしているが、中学校の状況を平等に評価するほうがよい) ・全学年の学習記録を同等に扱い、中学校の全ての学習成果を入試に反映させる。そのことで中学校の学習や生徒指導が初期段階から効果的に行われ、高校との繋がりを教員・生徒が意識することで、高校入学後の学習にも好影響を与えるのではないかと ・1～3年までの評定を総合すべき。その中で各高校が求める生徒の状況により、傾斜配点や重点教科の配点を検討することが必要

8 定時制課程に「成人枠」を設けることについて

		(人)	(%)	
①	現行どおりでよい	36	56.3	・現行どおりで問題はない ・学力検査は生徒の実態把握上必要 ・公正を期することが必要
②	成人枠を設ける必要がある	14	21.9	・向学心のある成人が入試のための特別な勉強をせずに、面接等の試験で受験できる制度は必要 ・全国的にも実施している県が多い ・成人枠を設けることで学習機会が拡大されるのであれば必要度は高い
③	どちらともいえない	14	21.9	

9 定時制課程の入試についての意見

- ・試験科目は、英数国の3教科とし、問題も選択できるようにしたほうがよい
- ・事情がある生徒が多く受検することから、選抜は面接と作文、調査書でよい
- ・一般入試については全日制と同一の入試でよい
- ・面接点の配点を増やす
- ・成人枠を設けて、学科試験を課さず面接等で入学させることで、ある程度の定員確保になる
- ・高校生が成人と一緒に勉強や学校活動することの意義が大きいのと思う
- ・現行制度を生かしながら、面接等で意欲を評価する

10 入学者選抜における、特別な支援を必要とする生徒への配慮や支援についての意見

- ・現在行われているように、個別対応でよい
- ・受検生が不利にならないように配慮
- ・真に生徒を活かす意味での中学校からの事前の詳細な情報提供等、中学校や関係機関との緊密な連携が必要
- ・該当生徒にとって、どこで学ぶのが良いのか、中高連携をしっかりと行う必要がある
- ・出願前の教育相談をしっかりと行い、その子にとっての望ましい進路によって受検をしてほしい。中学校からの適切な情報をお願いしたい
- ・入試後に、『支援を必要とする生徒』に関する調書等の高校への提出を義務化する
- ・事前に特別支援員の配置等の確約があればありがたい

11 入学者選抜の改善についての意見

- ・中学生の学習へのインセンティブを高め、学力向上をもたらすことが期待できる学検としたい
- ・ABC選考の良さは、入試処理が説明責任を果たしやすいような明瞭さがあったことである。今後改善するとしても、開示請求に応えられる明瞭さがなければならない
- ・多様化・個性化と言われているが、それは中学校程度の学力をしっかりと付けてからではないか。基礎基本の学力なくして多様化・個性化はあり得ない
- ・「特色ある学校づくりを進めるうえでも、学校の裁量をもっと弾力的に行える様に改善を願いたい
- ・特に推薦入試における学校裁量の範囲を拡大し、学校の特色を出せる方法に改善する。ただし、現在の推薦入試では、基準が曖昧に表現されているため、中学校側の対応が難しいと思われる
- ・生徒を活かす意味での中学校からの事前の詳細な情報提供等、中学校や関係機関との緊密な連携が必要
- ・特に問題がないので、入学者選抜方法を大きく変更するメリットはないと思う
- ・「制度」は出来るだけ安定している方がいい。改善することがあれば「部分的」でよい
- ・比較的短い期間で入試制度が変わってきている。生徒数の減少を見越しながら、短期間で変えなくて良い入試制度をお願いしたい
- ・中学校での学力低下も課題となっているので、入学者選抜の改善がその課題解決につながるようになってほしい
- ・中学校での学力向上のためにも、入試レベルの全体的な底上げが必要